２０１６年（平成２８年）８月３１日　水曜日

東奥日報新聞　１２面　掲載

日本、初戦大勝

香港を19―0 伊藤（光星）は2打点

野球 U―18アジア選手権

【台中共同】野球のU―18（18歳以下）アジア選手権は30日、台湾の台中で開幕して1次リーグが行われ、A組の日本は香港に19―0で七回コールドゲーム勝ちし、白星発進を飾った。

日本は5―0で迎えた三回、鈴木（静岡）の2ランなど、打者一巡の攻撃で7得点。投手陣は先発の寺島（大阪・履正社）が5回を12奪三振、2番手の島（千葉・東海大市原望洋）が2回で5三振を奪い、無安打に抑えた。伊藤優平（八学光星）は「2番・二塁」で先発。二回に犠飛、四回に右前に適時打を放つなど計2打点の活躍を見せた。

投打で持ち味存分に

焦点

日本代表

格下の香港に対して、高校日本代表が持ち味を存分に発揮した。毎回の19得点に加え、投手陣は無安打無得点リレー。小枝監督は「最初は硬かったが、自分たちの野球ができた」と躍動した選手たちに目を細めた。

二回以降は木製バットに対応したコンパクトなスイングで安打が続いた。代表で初めて1番に抜てきされ、2本の2点適時打を放った納（奈良・智弁学園）は「チームに勢いを付けられた」と笑みを浮かべた。

投手陣は先発した寺島が5回12奪三振と圧巻の投球。「攻めていく投球ができた。90点くらい」と自己評価し、続いた島も走者を一人も出さずに締めくくった。

31日は優勝争いをする上で一番のライバルと目される台湾と激突し、今井（栃木・作新学院）が先発する予定。今夏の甲子園大会優勝投手は「相手の速いスイングに力負けしないよう、一球一球全力で投げたい」と力強く話した。

【1次リーグ】

▽A組

香港（1敗）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本（1勝）	1	4	7	2	3	2	×			19

（七回規定によりコールドゲーム）

（香）林濃謙、郭靖、葉沢邦、何浚諾―葉君熙、譚浩其

（日）寺島、島―九鬼、渡辺

▽本塁打 鈴木（日）

台湾 1勝 20―0 1敗 インドネシア

韓国 1勝 14―0 1敗 フィリピン

中国 1勝 11―0 1敗 タイ

▽B組

東奥日報社提供